

作曲家

# 千住明が語る 《源氏物語》

AKIRA SENJU

もう12年も前の話になりますが、この作品は、源氏物語千年を記念して源氏物語千年紀委員会から委嘱されました。「源氏物語」を題材に何か創れないかと言う事で、どの様な曲を書こうかと悩みました。丁度その数年前に、東京文化会館音楽監督であった大友直人さんから新しい舞台音楽の作品の依頼を受けて、作詞家の松本隆さんと相談し、二人でオペラ「隅田川」を創ったタイミングでした。新しいアプローチのヒントをつかんでいた僕は、すぐに再び松本さんに依頼をして、オーケストラ歌曲にする事を決め、オペラ「隅田川」のプロダクションで培った方法で制作を始めました。基本的に詩が先で音楽が後という形でピンポンしながらブラッシュアップする方法です。

実は、この「源氏物語」には、僕のデモスケッチがもう1パターン存在しました。最終的に松本さんと相談の上、現在の形を採用したのです。初演時にも松本さんは「ガンジス川の水をコップ1杯で

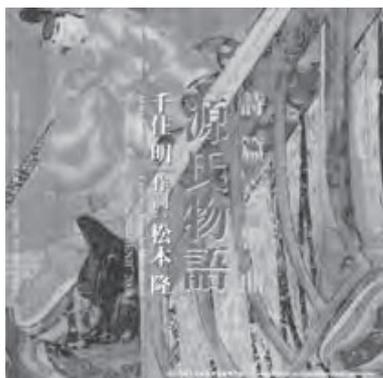
表す様なもの」とおっしゃいましたが、どこに焦点を当てるか、各詩の一篇一篇からストーリーが感じられる新しい形の源氏物語が語られていました。「詩篇交響曲」という言葉もそのコンセプトから来ています。

現代に継承するために色々なジャンルで源氏物語は扱われて来ました。現代日本人のクリエイターとして僕にお話を頂いた事が大変光栄な事です。様々な「源氏物語」に触れて、その世界を難しくするのではなく、分かりやすく表そうと思いました。現代音楽でもポピュラー音楽でもなく、純音楽とエンターテインメントの中間の楽曲にしたつもりです。特に僕が音楽の立場で大切にしたのは序曲と終曲で、皆様を源氏物語へ誘い、また再び現実の世界へ戻っていただく、という世界観を創る事でした。

初演は2008年10月31日京都コンサートホールに於いてソプラノ小林沙羅、テノール松本董平、大友直人指揮、京都市交響楽団により演奏され、NHKBS

## 作曲家 千住明が語る《源氏物語》

でも放送されました。当時、風当たりの強い立場になるであることを覚悟した初演でした。当日は、千年の時を越え、短編映画を観るかの様な瞬間でした。



初演はライブ盤のCDにもなっている。詩篇交響曲「源氏物語」(TOCT-26749/ユニバーサルミュージックジャパン)

今年僕は活動35周年を迎えます。様々な音楽を創って参りましたが、この10年程は自分発の純粋な音楽、特にオーケストラの作品を書くチャンスに恵まれ、その世界を掘り下げて来ました。本公演の指揮者 大友直人さんはプライベートでも親しくして頂いている、いつも新たな模索を共にして来た、僕の最大の理解者であり盟友です。これまでの共演でも、彼の適切なリードとアイデアがあり、この道を開く大きな勇氣とチャンスになりました。

そして今回本楽曲を演奏する東京交響楽団は、子どもの頃、そして学生の頃から憧れたオーケストラのなかでも、特に現代曲や新曲に於いて僕の師匠をはじめ、多くの先輩作曲家、編曲家たちの作品を紹介され、正に日本のオーケストラ文化を象徴する楽団だと思います。

僕の作品もすでに「万葉集」「日本交響詩」等、取り上げて頂き、今回もまたその歴史に加われる事を光栄に思います。また僕自身の個展コンサートに於いても共演して頂いた事は大変大きな経験になっています。

今後も新作オーケストラ音楽に新たな可能性を見出して行きたいと思っています。



©N.Ikegami  
2017年8月20日 東京オペラシティシリーズ第99回  
指揮=大友直人、管弦楽=東京交響楽団  
千住明：オペラ「滝の白糸」から 第3幕

### 千住明 Akira Senju

[作曲家 / Composer]

1960年10月21日東京生まれ。幼稚舎より慶応義塾で学び、慶応義塾大学工学部中退、東京藝術大学作曲科卒業。同大学院を首席で修了。修了作品「EDEN」(1989)は史上8人目の東京藝術大学買上となり、同大学美術館(芸術資料館)に永久保存されている。藝大在学中からその活動は、ポップスから純音楽まで多岐にわたり、作曲家・編曲家・音楽プロデューサーとしてグローバルに活躍。'97年第20回、'99年第22回、'04年第27回日本アカデミー賞優秀音楽賞等受賞歴多数。東京藝術大学特任教授。東京音楽大学特別招聘教授。